

好学尚武

市立浦和高等学校野球部通信
発行者 鈴木 諭

発行日 H30. 7. 2
発行ナンバー 610号

練習試合の結果

30日(土) 対与野高校		
第1試合	4対1	勝利
1日(日)		
対笛吹高校	1対6	敗退
対浦和学院高校	12対6	勝利
通算成績	42勝 23敗	6分

今、感じること

皆さん感じていることは同じだと思いますが、イヤな事件が続いています。「キレて」ナイフや拳銃を使用する・・・被害に遭うのが小学生、女性、老人・・・また、人身事故による電車の遅延もやたらと多い・・・日本という国の進んでいる道は正しいのでしょうか・・・教育に携わる者として、少しでも貢献できることがないものか・・・こんな私でもそんな事を考えたりします。

「学校」とは、集団の中でどのように生きていくか、を学ぶ場です。クラス・部活動・先生方と・・・すぐに「キレて」しまっちは、その集団生活は成り立ちません。学校での学びが少ないまま社会に出ている人が多いのではないのでしょうか・・・部活動の役割も間違いなく大きいはずです。うまくいかない時にしっかりと向き合わなければならぬからです。(野球で、打てなくてキレていても何の解決にもなりません・・・)

市高では29日(金)、NO!スマホデーが実施されました。携帯電話も集団生活に必要な「直接的な関わり」を奪ってしまうマイナス面があるのではないのでしょうか・・・

日本の未来が明るいものであってほしいです。

(招待試合でお世話になった)

大宮東高校の存在

私が中学生の頃(昭和60年代)、県内で一番実力のある公立高校は大宮東高校でした。特に、市高が甲子園に出場した昭和63年の夏は、春の関東大会で優勝していたこともあり、大本命でした。

昭和63年夏・準決勝のカード(4校とも公立)

- ① 大宮東 対 市立川口
- ② 川口工業 対 浦和市立

実はこの年、強打の大宮東高校に対抗できるのは、春・甲子園大会に出場した好投手・片山選手擁する西武台高校と言われていました。この組み合わせが準々決勝で実現・・・延長戦の末、大宮東高校が勝利したのでした。(大宮東2対1西武台)

西武台高校に勝利し、準決勝に残った高校がこの4校になった時点で、県全体が大宮東高校の甲子園出場だろうという雰囲気になりました。好ゲームができるのであれば同じ強打の川口工業高校か・・・でも、強打対決なら大宮東だろう・・・という感じでした。

結果は皆さんご存知の通り・・・準決勝が2試合とも番狂わせ・・・市立高校同士の決勝戦となったのでした。(市高が決勝に進出したことより、大宮東が準決勝で敗退したことのほうが大きな扱い・・・)今でも、市高の決勝相手が大宮東高校だったらゴゴゴにやられていただろう・・・という話をよく聞きます。

当時、甲子園出場を決めた浦和市立高校に心ない電話があったそうです。それがどうしてか・・・それぐらい、大宮東高校が甲子園大会に出場すれば(当時埼玉県初の)全国優勝を狙える・・・と思われていた年だったのです。

30年経った今でも埼玉県公立高校野球部の上位を走り続ける大宮東高校、いつまでもそういう存在であってほしいと思います。(市高は30年前と同じように、そういう中、するするっと抜け出すような存在を目指したいと思います)